

# 特集

# ごみを考える

## 第1部 ごみ出しのルール

最大の敵は  
無関心という名の  
『無責任』

リサイクルのまち  
その名に恥じない  
モラルを築こう

文明社会といわれる現代、私たちの身のまわりには生活を豊かにしてくれる便利なモノがあふれています。便利とともに増えてきたのがごみ。「便利なモノは好きだけど、いらぬごみはあつち行け」。普通、これが正直な気持ちですよ。でも、ごみ即ちモノは、限りある地球の資源からできているのです。「今さえ、自分さえ良ければ」なんて卑怯な<sup>ひきょう</sup>こと思っていると、地球が減んでしまいますよ。もっとマジメに考えませんか、ごみのこと。



前の日の晩に出すのは  
なぜいけないの？

ごみは、地区ごとに決められた収集日の、早朝から午前八時三十分までの時間帯に出しましょう。

収集日より前にごみを出すと、ごみ袋が散乱する原因になります。とくに燃やせるごみの場合、犬や猫、カラスなどの格好の餌になってしまいます。ごみ袋が破られて中身が一時預かり所の周りにメチャメチャに散らかっているのを目にしたことがあるかたも多いはず。自分の出したごみがそんなふうになって、心が痛まない人はいないでしょう。朝、忙しいのはだれでも同じ。自分のためにもみ

んなのためにも、時間はきちんと守りたいものです。

どうせごみなんだから、  
別に分別しなくても  
いいんじゃない？

燃やせるごみに、燃やせないごみが混じっていたらどうなるか、考えてみてください。

処理施設に集められたごみは、焼却炉に投入される前に、細かく砕かれます。そこに金属などの燃やせない（砕けない）ごみが混じっていると、施設が壊れてしまう被害が、残念ながら後を絶たないのです。施設の修理費用は巨額です。もちろんそれは、大切な税金の中から支出されることになります。「ウチ一軒

ぐらい」とか「バレなきやいだらう」といったあいまいな態度が、市民みんなに対してどれほど大きな罪になっているのか、もっと意識するべきではないでしょうか。

また、資源ごみを一般のごみと分別すると、ただ廃棄されるだけのごみの量が減ることになります。後でも触れますが、このちょっとした工夫で、施設の運転資金（税金）も、限りある資源も節約できますし、地球環境の汚染も緩和することができますようになるのです。

汚い生ごみのツユ。

水切りだなんて

したくない…

台所から出る生ごみは、その六五%から八五%までが水分で占められているといわれます。しかも、夏場には、スイカなどの果物類や野菜がたくさん消費されるため、生ごみにはいつもよりもたくさんの水分が含まれます。暑い時期にはそんな生ごみがとかく腐敗しがち。そのまま一時預かり所に置いて来ると、